



ふしぎの国のアリス

ルイス・キャロル 作 生野幸吉 訳 ジョン・テニエル 画
福音館書店

キャロル

アリスはお姉さんと一緒に川の堤に来ていましたが、とても退屈になってきました。そのとき、ピンクの目をした白いウサギが、アリスのすぐそばを走っていきました。ウサギは「たいへんだ、おくれしてしまうぞ!」と、ひとりごとを言っています。しかも、チョッキのポケットから時計を取りだして、それに目をやってからかけていくのです。アリスはウサギを追って、垣根の下の大きなウサギ穴にとびこみました。



ふしぎ 不思議を売る男

ジェラルディン・マコックラン 作 金原瑞人 訳
佐竹美保 絵 偕成社

マコラン

エイルサは、図書館で風変わりな男に声をかけられました。この男、エイルサの家がつぶれそうな古道具店ということを知ると、ぜひ働かせてほしいと言うのです。経営者の母親に断ってもらおうつもりが、逆に口車にのせられて雇うことになってしまいました。最初は、警戒していたエイルサ親子。しかし、古道具が売れ始めます。それは、彼のある特技のおかげなのですが……。エイルサは、そんな彼が次第に気になり始めます。



冒険者たち

—ガンバと十五ひきの仲間—

サイトウ

斎藤惇夫 作 敷内正幸 画 岩波書店

ドブネズミのガンバは、心地よいねぐらで何の不満もなく暮らしていました。ある日、友だちから船乗りのネズミの集會にさそわれました。そこには食べきれないほどの食べ物があり、船乗りたちの冒険の話などに聞き入るうちに、楽しい時間が過ぎていきます。やがて解散しようとした時、島ネズミの忠太が命からがら助けを求めにやってきました。忠太の故郷の夢見が島では、イタチのノロイ一族が大暴れして、たくさんの仲間がやられているというのです。

星の王子さま

サンテクシ

サン＝テグジュペリ 作 内藤濯 訳 岩波書店



飛行機が不時着したサハラ砂漠で、最初の夜が明けたときのことでした。飛行士は、だれもいないはずの砂漠で、小さな声を聞いて目を覚まします。そばにはかわった様子の男の子がいました。彼は、ほかの星からきた王子さまでした。好きな花を残して、小さな星を出た王子さまは、様々な星をめぐって地球にたどり着いたのです。飛行士と星の王子さまの出会いと、永遠の別れを描きます。



マチルダは小さな大天才

タル

ロアルド・ダール 作 ケンティン・ブレイク 絵
宮下嶺夫 訳 評論社

マチルダは、大天才。小学校へ入学する前に図書館の子どもの本を全部読み終わりに、難しい大人の本を読むようになっていました。けれども、両親はマチルダが天才だということに全く気づいていません。それどころか、マチルダのことをかさふたくらいにしか思っていないのです。それに、小学校には生徒たちに暴力をふるうひどい校長先生がいました。そんな大人たちを、マチルダが知恵とふしぎな力でやっつけます。

ムギと王さま

【本の小べや 1】

フアジョン

フアージョン 作 石井桃子 訳 岩波書店

お人よしのウィリーが、わたしに聞かせてくれたお話です。宮殿に住み、リッパな服を着て、宝石やお金をいっぱい持っているエジプトの王さまと、金色にかがやくムギ畑を持っているぼくのおとうさんは、どちらが金持ちか……王さまと男の子が言い合いをはじめました。ふたりは一步も引きません。どうやって決着をつけたのでしょうか。『ムギと王さま』のほか、髪の毛のためだけに生きていた王女たちを描いた『七ばんめの王女』など、14編からなる短編集です。

